


◆ミニレクチャー

テーマ 「県立病院採用の薬効分類医薬品について」

講師 薬剤部長 平賀 貴志 先生



**県立病院採用の
薬効分類別医薬品について**

福井県立病院薬剤部
平賀貴志


福井県立病院薬効分類別採用品目一覧

112.催眠鎮静剤（経口剤）	396.経口糖尿病用剤
112.抗不安剤（経口剤）	396.インスリン製剤
113.抗てんかん剤（経口剤）	
114.解熱鎮痛消炎剤（経口剤）	429.抗悪性腫瘍剤（経口剤）
116.抗パーキンソン剤（経口剤）	429.抗悪性腫瘍剤（注射剤）
117.抗うつ剤（経口剤）	441.抗ヒスタミン剤・抗アレルギー剤（経口剤）
117.統合失調症用剤（経口剤）	
	520.漢方製剤
212.不整脈用剤（経口剤）	
213.利尿剤（経口剤）	611.経口病原生物用剤
214.αブロッカー	611.注射病原生物用剤
214.βブロッカー	634.血液製剤類・インナー10製剤
214.ACE阻害剤、AT1ブロッカー	
217.カルシウム拮抗剤（経口剤）	
218.高脂血症用剤	
224.鎮咳去たん剤（経口剤）	
225.β刺激剤	
232.H2ブロッカー、PPI	
232.制酸剤、胃酸分泌抑制剤	
245.内用・注射ステロイド剤	
264.外用ステロイド剤	
264.外用鎮痛剤	
265.外用抗真菌剤	

（院外）＝院外処方専用
（後発）＝後発医薬品
（院外、後発）＝院外処方専用＆後発医薬品
（震災）＝東日本大震災対応


医療機関における治験実施のメリット

1. 最新の医療にふれることができる
2. 社会的貢献
3. 経営的メリット
4. その他



患者さんにとっての治験参加のメリット

1. 最新の医療が受けられる
2. 細かい診療・検査が受けられる
3. 経済的負担が軽減される
4. 社会的貢献ができる
5. その他



治験を行うためには ～はじめに～

治験はGCPを理解した上で実施されます。
GCP(Good Clinical Practice)臨床試験の実施に関する基準

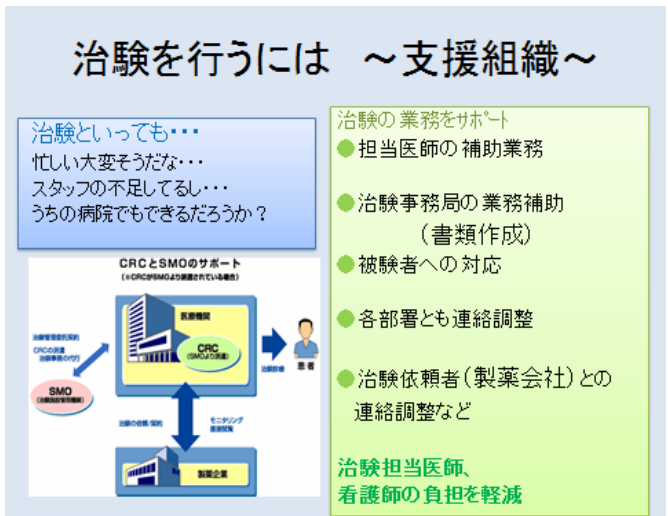
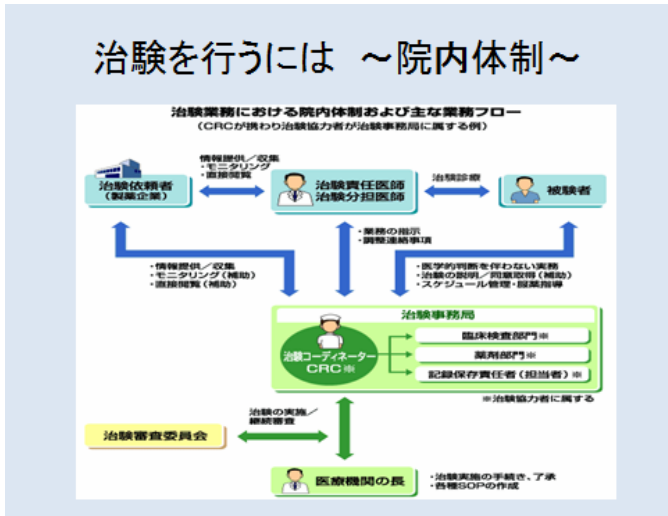
GCPの主な目的は2点

- ・臨床試験データの信頼性の確保
- ・被験者の人権と安全性の確保

福井県立病院セントラル
IRBで実施可能

IRBの設置、運営が必要
IRB(Institutional Review Board)治験審査委員会
倫理的、科学的および医学的妥当性の観点から治験の実施と継続の可否についての審査を行う

治験の具体的業務を行うためにはSOPが必要
SOP(Standard Operating Procedure)標準業務手順書
治験を実施する過程において基本的な業務手順をまとめたマニュアル
治験を実施する医療機関はGCPに従いSOPの作成が義務化されている



当院で採用されている薬剤のまとめです。スライド 127 枚での大講演で、新規採用品、注意が必要な薬品、最近のトピックまで盛りだくさんの内容です。最後には当院でもシステム整備が整った治験についても説明して頂きました。